

介護実習事前事後指導		単位数	履修方法	配当年次
		1	SR(演習)	3年以上
22年度以前入学者科目コード	EB4701	担当教員	後藤美恵子・広浦 幸一	
23年度以降入学者科目コード	EB4741			

※平成28年7月までの介護実習事前指導スクーリングを受講し、29年2月までに「介護実習」を終える必要があります。

■科目の内容

社会福祉における援助展開は、個々の生活課題の解決を援助・支援するための実践活動です。介護実習は理論と実践、思考と体験とを有機的に統合化させ、福祉専門職としての実践活動の基盤を形成するものです。本科目は「介護実習」科目を包括した位置づけにおいて、施設の法的位置づけ、社会的役割と現状、対象者理解を深めるとともに、福祉専門職に求められる資質（倫理観・人間性・技能）および社会的役割についての理解を深化させます。さらには、福祉科教員として教育展開方法の考察をしていくことを目的とします。事前指導では、実習施設の概要（形態・業務内容など）理解を図るほか、社会福祉援助のための知識・技術・価値観・態度を確認します。事後指導では、実習を通して体感したことを振り返り、専門職育成の教育者として、自身の専門性の素養・資質の向上を図ります。さらに、一連の実習過程で習得したことを教育にどのように展開していくかを習得します。

※スクーリング受講にあたっては、①本冊子巻末に添付の「介護実習登録カード」の提出と②受講条件を満たすことが必要です。手続きについてはp.118～121の「事前指導スクーリング受講条件」「事前指導スクーリング受講申込から実習受講までの流れ」をご覧ください。

※また実習にあたっては、自身で受け入れ施設をさがし、依頼をすることが必要です。p.122～127の「介護実習」もよく読んで準備を進めてください。

■到達目標

- 1) 介護実習の意義及び目的を理解し、自己の目的意識について説明できる。
- 2) 利用者の日常生活障害について説明できる。
- 3) 利用者のneedsに即した介護過程を説明できる。
- 4) 施設の機能及び役割について説明できる。
- 5) 実践を体系化するための記録方法について説明できる。
- 6) 基礎知識・技術、理論を実践化するための応用展開について説明できる。
- 7) 介護実習と福祉科教育との関係性について説明できる。

■教科書

介護実習事前指導スクーリング申込者に『介護実習の手引き』（教科書①）、スクーリング時に『介護実

習事前事後指導－技術編－』（教科書②）等を配付。

■在宅学習 8 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	介護実習の目的・目標 (教科書① p. 1)	・高等学校「福祉科」教員免許取得のための介護実習の目的・目標について理解する。 キーワード：理論と実践，思考と体験，総合化，専門知識・技術，介護過程	・高等学校「福祉科」教員免許取得のための介護実習の目的・目標について理解し説明できるようにしましょう。
2	社会福祉施設の社会的 位置づけ (社会福祉 六法)	・社会福祉施設の社会的位置づけ，及び介護実習先の関係について理解する。 キーワード：社会福祉法，老人福祉法，児童福祉法，生活保護法，身体障害者福祉法	・社会福祉施設の社会的位置づけ，及び介護実習先の関係について理解し説明できるようにしましょう。
3	社会福祉施設の概要 (社会福祉 六法)	・社会福祉施設の社会福祉関連法規に基づく概要について理解する。 キーワード：社会福祉法，老人福祉法，児童福祉法，生活保護法，身体障害者福祉法	・社会福祉施設の社会福祉関連法規に基づく概要について理解し説明できるようにしましょう。
4	介護実習の目的と実習 計画 (教科書① p. 3-4)	・介護実習の目的を踏まえ，介護実習の計画立案ができる。 キーワード：実習過程と計画時期	・介護実習の目的を踏まえ，介護実習の計画立案ができるようにしましょう。
5	実習記録の書き方	・介護実習の内容を，実習課題に基づいた記録方法について理解する。 キーワード：実践の理論化，主観的情報，客観的情報，記録技法	・介護実習の内容を，実習課題に基づいた記録方法について理解し記録できるようにしましょう。
介護実習			
6	具体的達成 課題の実践	・介護実習の具体的達成課題について，理論と実践と結びつけながら理解する。 キーワード：理論と実践，思考と体験，総合化，専門知識・技術，介護過程	・介護実習の具体的達成課題について，理論と実践と結びつけながら理解し説明できるようにしましょう。
7	実習の達成 課題と考察	・介護実習の具体的達成課題について，実践評価の観点から理解する。 キーワード：理論と実践，思考と体験，総合化，専門知識・技術，介護過程	・介護実習の具体的達成課題について，実践評価の観点から理解し説明できるようにしましょう。
8	今後の課題	・介護実習を通して社会に求められる福祉科教育のあり方について理解する。 キーワード：福祉科教育，専門職養成，介護実践	・介護実習を通して社会に求められる福祉科教育のあり方について理解し説明できるようにしましょう。

■レポート課題

介護実習 事前レポート

レポート用紙：指定の専用用紙（事前指導スクーリング受講条件を満たした方に配付）。

提出締切：6/20（7月スクーリング受講希望者：H27・28年度開講）

課題：自身が実習を予定している施設について、下記の項目のレポートを作成してください。

1. 施設概要

- ① 施設種別 ② 施設の法的規定と理念・趣旨
- ③ 対象者とその具体的条件（利用要件等） ④ サービスの利用方法
- ⑤ 施設の設置基準 ⑥ 社会的役割と現状の課題

2. 実習実施計画

- ① 実習目的 ② 実習課題と取り組み方法

※事前レポートが不合格の場合は実習が不許可になる場合があります。スクーリング受講後すぐに実習を実施する方は早めに提出してください。

※合格済みの事前レポートは、事前指導スクーリング時にご持参ください。

※実習施設の内諾を得られない状態で事前指導を受講する場合も、実習を予定する施設について作成すること。なお、予定施設と実施施設が異なった場合は、必ず各自で実施施設についてのレポートを作成すること（事前レポートの内容は、実習に必要不可欠なもののため）。

※実習免除者は、実習証明書の該当施設を対象にしてレポートを作成すること。

介護実習 事後レポート

レポート用紙：通常のレポート用紙。2,000字程度を標準としますが、4,000字まで可（パソコン印字の場合、左右40字×30行×4枚まで可）。

提出締切：実習終了後1カ月以内

課題：事前指導スクーリングの際に提示いたします。

※実習免除者は、実習証明書の当該施設を題材にして作成すること。

■アドバイス

本科目では、介護実習をするうえでの知識や、その背景にある理念、概念を習得することにより、福祉専門職としての基盤を構築することを学習の目的としています。目的を達成するためには、必要な情報を、資料や文献から検索する力やそれらをまとめて自身の課題を明確化し、課題の解決方法を構成する力も求められてきます。本課題を展開するにあたっては、介護に関する社会的動向や問題に注目したり、インターネットを利用して情報を収集するなど、常に最新の福祉情報を得よう心掛けてください。そのような過程をもとに、広い視野で学習展開をされることを期待します。

<事前レポート 解説>

1. 施設の概要調査①～⑤については関連法規を調べ、法令等の条文の中から抜粋して記述していきます。⑥については文献、資料、新聞、インターネット等の情報を簡潔にまとめて自身の考えを論述（総括考察）してください。インターネットの情報は公的サイトを活用してください。

2. 実習実施計画は、1の①～⑥を踏まえて自身の実習目的を明確にし、目的を達成させるための課題と課題達成のための取り組み方法を具体的に記述してください。

■参考図書

- 1) ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法 最新年版』ミネルヴァ書房
- 2) 社会福祉法令研究会編『社会福祉法の解説』中央法規出版, 2001年
- 3) 介護福祉士養成講座編集委員会編『介護総合演習・介護実習』中央法規出版, 2009年
- 4) 介護支援専門員テキスト編集委員会編『介護支援専門員基本テキスト(5訂)』財団法人長寿社会開発センター, 2009年

■事前指導スクーリング

会場：仙台（本学）

開講日：7月に連続3日間（H27・28年度に開講）。詳細は『試験・スクーリング情報ブック』や『With』参照。

開講月	スクーリング申込締切日	事前レポート提出締切日
7月	6/10	6/20

【平成23年度以降入学者】

3日間で「介護実習事前事後指導」「介護技術」の2科目のスクーリング受講。申込みは「介護実習登録カード」のみの提出。受講料：各10,000円の合計20,000円。

【平成22年度以前入学者】

3日間で「介護実習事前事後指導」1科目のスクーリング受講。受講料：10,000円。

■事前指導スクーリング 申込みにあたって

- (1) 受講条件（下記）を達成する必要があります。
- (2) 「介護実習 登録カード」（本冊子巻末）を提出してください。
（スクーリングの申込みと実習先を探し始めたいという希望届を兼ねています。）
- (3) 「事前指導スクーリング」と「介護実習」は、できるだけ同一年度に受講してください。
- (4) 科目等履修生は、「介護実習」を終えた後でも、事後レポートとその評価が出ていない場合は、次年度も「介護実習事前事後指導」「介護実習」の2科目を、再度履修登録する必要があります。
- (5) 「事後指導」は事後レポートの提出のみで、スクーリングはありません。

■事前指導スクーリング受講条件

6/10（申込締切日）までに以下の(1)～(5)、および6/20までに(6)を満たしていること

- (1) 卒業後（将来）教員として就職する意思が明確な方
※単なる免許取得のための実習は認められません（施設は、利用者にとって生活の場です。プライベートな空間へ入るわけですから、しっかりとした目的意識を持ってください）。

※「介護実習」を受講する方は、原則として次年度「教育実習」「障害者（児）教育実習」以外の実習は受講できません。

(2) 3年次以上の方もしくは科目等履修生

(3) 下記①・②の2科目の全単位分のレポート提出（5条別表1による履修者は単位修得すること）

① 介護概論

② 実習に行く施設の分野福祉論 [高齢者福祉論 or 障害者福祉論 or 児童（・家庭）福祉論]

※6条別表4による履修者は介護実習開始2週間前までに①②を単位修得すること

※これら2科目については、他大学で修得済みであっても、本学での履修・修得が必要となります。

(4) 5条別表1による履修者は下記①～⑥の6科目の単位修得を、6条別表4による履修者は下記④～

⑥の3科目を履修登録し学習を進めていること

① 教育原理

② 教職論

③ 教育心理学

④ 福祉科の指導法

⑤⑥ 実習に行く施設以外の分野福祉論2科目 [高齢者福祉論 or 障害者福祉論 or 児童（・家庭）福祉論]

(5) 卒業要件単位を1年次入学者は50単位以上、2年次編入学者は20単位以上を修得していること（3年次編入学者と科目等履修生は関係ありません）。

※科目等履修生の場合、「介護実習」を受講するには18単位以上（実習科目を含めて可）の履修登録が必要です。

(6) 「事前レポート」の提出。（p.117参照）

■事前指導スクーリング受講申込から実習受講までの流れ

事前指導スクーリング受講条件の達成

※p.118～119参照。スクーリングの申込締切日（6/10）までに。

※5条別表1による履修者と、6条別表4による履修者では条件が異なります。



「介護実習 登録カード」の提出

※本冊子巻末。スクーリングの申込締切日（6/10）必着。

※スクーリング受講条件を達成したならば、早めに提出してください（実習希望先への依頼を早く行うことができます）。



受講条件をクリアしている方に、大学から「介護実習関連書類一式」を送付

※一式には、事前レポート用紙や、実習希望先に依頼するための書類等が含まれています。



スクーリング申込締切日（6/10）



受講条件を達成している方に、大学から「スクーリング受講許可証」を送付



事前レポートの提出

※ p. 117参照。

※提出締切日（6/20）必着。



スクーリング受講料・実習費の納入

※スクーリング受講料：平成23年度以降入学者は合計20,000円（「介護技術」と併せて）。平成22年度以前入学者は10,000円。実習費：30,000円。

送付される納入依頼書にてコンビニで納入。



スクーリングの受講

7月に連続3日間。

詳細は『試験・スクーリング情報ブック』や『With』でご確認ください。



「介護実習」受講条件の達成

1) 6条別表4による履修者：下記2科目の単位修得（実習開始2週間前までに）。

①「介護概論」

②「実習に行く施設の分野福祉論（高齢者福祉論 or 障害者福祉論 or 児童（・家庭）福祉論）」

2) 5条別表1による履修者：事前指導スクーリング受講条件の達成と同時に「介護実習」受講条件も達成済です。



実習施設をさがす

※ p. 124参照。



実習施設から内諾を得る

※ p. 124～125参照。

①電話で依頼

②実習施設を訪問し、依頼のための書類等を提出

・「依頼書」（大学から実習施設宛）

・「内諾書」（実習施設から大学宛）

・「白封筒」（上記2点を入れる封筒）

・「青封筒」（大学への返送用封筒）

③実習施設から大学に「内諾書」を「青封筒」を使って送ってもらう



実習関係書類を大学に提出

※提出締切日：実習開始2週間前。

・「依頼書」のコピー

・「誓約書」

・「健康診断書」



大学から「介護実習 受講許可証」を送付（実習開始2週間前）

※同時に実習施設に「正式依頼状」等を送付します。



実習の受講（2週間）

※ p. 122～127参照。



事後レポートを大学に提出

※ p. 117参照。

※提出締切：実習終了後1カ月以内。



（実習終了後）

「実習日誌」・「出席簿」は実習先に提出



実習先から「実習日誌」・「出席簿」・「評価票」が大学に返送



単位認定通知

■科目の評価基準

この科目は事前レポート30%、仙台会場における「スクーリング」の実技や演習課題30%、事後レポート30%、実習記録10%を総合的に判断して、科目の単位修得を判定します。